いざなぎ学園だより

第24回講座 令和7年1月8日（水）

令和7年1月8日（水）午前10:00から淡路文化会館講堂にて、関西テレビの井上真一記者をお招きし、第24回講座「ドキュメンタリー制作の裏側　テレビ報道の存在意義」を開催しました。学園生67名、単発受講生1名が参加しました。
講座では、2023年2月17日に放送された「ウクライナ、9×9の歌～明日をつくる子どもたちへ～」を上映しました。続いて取材や撮影、編集など、ドキュメンタリー制作の裏側についてお話しいただきました。
この講座を通じて、戦場を逃れて日本で暮らす子どもたちが抱える問題について「自分ごと」として捉えることの重要性、そしてそれを喚起する報道の意義について改めて考える機会となりました。

◎学園生のみなさんの感想　振り返りシートから（抜粋）

•ドキュメンタリーに収められている映像などを見ると、奥深い考えがあるのだと感じました。大切なことを自分事として捉えて作られているのが伝わってきます。
•日本は島国で、戦いが起きても他国へ逃げるという考えはほとんどなく生活してきました。しかし、昨日まで普通の生活だったのが、今日はもう逃げる生活しかなくなったという現実があります。言葉もわからない国に逃げることになっても、命は安全です。ドキュメンタリーは、私たちが日ごろ思いもしない生活を映し出していました。
•ウクライナの子どもたちが400人も日本にいるということに驚きました。戦争のない世界を願っています。映像で見ないとわからない現状を知り、感動しました。
•言葉の壁が子どもたちに大きな障害を与え、心まで閉ざしてしまうという現実を目の当たりにし、涙が出そうになりました。
•ウクライナの子どもたちが言葉の壁を越えるために、一生懸命に九九を勉強している姿が感動的でした。
•作られたドラマではない、あまり知られていなかった真実に引き込まれました。作り物ではないがゆえの苦労が多いこともよくわかりました。
•世界中で戦争が起きていますが、一番被害に遭っているのは子どもたちです。なかなか終わりが見えないウクライナとロシアの戦争を見るたびに悲しくなります。
•ウクライナの人々は勉強しなければならないけれど、その前に日本語を学ぶ必要があります。本当に大変だと思います。早く戦争が終わりますように。今日の講義は良かったです。
•ウクライナの戦争についてはニュースで知っているだけでしたが、その影響を受けている市民の身近な生活、特に日本に来て生活している様子についてわかりやすく知ることができました。言葉や生活習慣がわからない中で子どもたちがとても苦労している様子が映像で見られて、より身近に感じました。

兵庫県立淡路文化会館

〒656-1521 兵庫県淡路市多賀600
TEL 0799-85-1391　FAX 0799-85-0400
https://www.awaji-bunkakaikan.jp/

AWAJI_CULTURAL_HALL